

2025年度 教育課程編成委員会 報告書

学校法人日産学園 専門学校
日産栃木自動車大学校

2025年度 第1回目 教育課程編成委員会 開催記録

1. 日時、場所

2025年7月25日（金）10：00～12：00

場所：日産栃木自動車大学校 第1会議室

2. 参加委員

外部委員	菅野 好一	栃木日産自動車販売（株）営業本部 アフターセールスグループ次長
	友善 直樹	日産プリンス栃木販売（株）営業本部 営業支援グループ課長
	木村 俊宏	（株）茨日ホールディング 人財開発部 教育グループ 課長
	石原 友則	栃木県自動車整備振興会 教育技術部 次長
内部委員	中村 光之	日産栃木自動車大学校 校長
	高橋 真	同上 教育部 部長代理
	渡辺 禎	同上 教育部 教務課長
	神林 亘	同上 教育部 自動車整備科・国際自動車科 課長
	羽井野 昌能	同上 学務部 部長代理
	川上 宏美	同上 ASS
オブザーバー	岩田 利興	日産・自動車大学校 教育企画部 部長代理 （オンライン参加）

3. 会議次第、議題

1) 校長挨拶

2) 各課題について論議

(1) 卒業生評価について

- ・ 販社アンケートスコア低迷に対しての分析と施策について論議

24/4月入社の卒業生に対する企業アンケートでは、

- ①整備技術では基本的な電気回路の理解等
- ②日常業務の対応力では、お客さまへの気配り等

を主に全体的に低下傾向であり、5校の中でも低レベルにある。

新任教員の増、学生・教員の多様化が要因と考え、新任教員育成研修や、ベテランが新人をサポートしやすい組織にするなどの施策で対応している。

(2) 実習授業改善

- ・ 技術レベルの個人差を縮めるための対応、施策について論議

入学生の多様化などから、現行の実習でのレベル向上が難しくなっており、25/6月の学校関係者評価委員会でも、卒業生の技術習得レベルの差を縮めてほしい要望があった。

学生個々の能力差によるもの、実習体制（1人当たりの教材等）の要因があるが、後者はエリア等の制約から直ぐの対応が難しい為、先ずは、学生個々の能力差への対応を考え実施している。

実習は全員を到達レベルにしていくために、個々人、到達レベルに至るまで訓練できるような実習・実技試験のやり方を考え実施している。

（3）留学生対応

- ・増加する留学生に対応したクラス編成や授業運営に関して論議

留学生の比率は、FY26では日本人を超えることになる。現在の1,2年全科混成では、語学力の問題などから、一律の授業運営には問題が多く、対策が求められる。

1案として1,2年全科混成を止め、一級、整備課、国際科（留学生のみ）にクラス分けを検討。サブ案として、日本人と留学生の混成の良さを残した、実習は混成、学科は分離、案もある。

（4）学校教育法改正への対応

26年4月1日施行の学校教育法に対応するため、単位制の設定等が必要となる。準備は順調に進んでおり、その概況を報告した。

4. 配布資料

上記各課題についてそれぞれ資料あり。

以上

2025年度 第2回目 教育課程編成委員会 開催記録

1. 日時・場所

2026年2月27日（金）14:00～16:00

場所：日産栃木自動車大学校 第1会議室

2. 参加委員

外部委員	菅野 好一	栃木日産自動車販売（株）営業本部 アフターセールスグループ次長
	友善 直樹	日産プリンス栃木販売（株）営業本部 営業支援グループ課長
	木村 俊宏	（株）茨日ホールディング 人財開発部 教育グループ 課長
	石原 友則	栃木県自動車整備振興会 教育技術部 次長

内部委員	中村 光之	日産栃木自動車大学校 校長
	高橋 真	同上 教育部 部長代理
	渡辺 禎	同上 教育部 教務課長
	神林 亘	同上 教育部 自動車整備科・国際自動車科 課長
	羽井野 昌能	同上 学務部 部長代理
	川上 宏美	同上 ASS

3. 会議次第、議題

1) 校長挨拶

2) 各課題について論議

(1) 卒業生評価結果に対する対策の進捗報告

販社アンケートスコア低迷に対しての対策の実施について実施報告、論議。

1) 組織変更による教育部全体の戦力アップ

- ・クラス単位から学年全体で対応する体制へ変更し、ベテランが若手をバックアップする体制を構築。

2) 学年毎の重点項目と対策（1年生）

- ・電気回路の理解：サーキットテスターを用いた電圧・電流・抵抗の理解。
- ・サークルチェック：日替わり当番制による車両確認の徹底。
- ・PC関連作業：ESM（電子整備要領書）を用いた自学自習の促進。

3) 学年毎の重点項目と対策（2年生）

- ・対応力向上：挨拶、報連相、整備の成功体験を通じた自信醸成。
- ・名前を呼んだ点呼によるコミュニケーション強化。
- ・点検実習内での「お客様対応」試験の導入。

4) 各科の取り組み

- ・工学科：授業アンケートの短サイクル化による改善。

- ・国際科：法令遵守、身だしなみ、時間厳守などのルール徹底。

5) 新任教員育成 (8月～2月の集中研修)

- ・悩みや理想像の共有、1週間の授業聴講、授業計画書の作成、横浜校見学の実施。

(2) 実習授業改善の取り組み

技術レベルの個人差を縮めるための対応、施策について実施報告と論議。

1) 技術レベルの個別差への対策 (工学科3年)

- ・教え合いの導入：故障診断実習において、班員全員が説明できるまで教員に報告しないルールを適用し、成功事例となった。(故障探求ができた学生が、班員全員に説明し、話合うことで全員が理解した状態で教員に報告するという手順を徹底した)

2) 技術レベルの個別差への対策 (整備科)

- ・整備科では能力差、学習意欲の差が大きく工学科同様の教え合いは困難だった。対策として次年度はクラス編成を見直す方針。(詳細は次課題で説明)

3) 全員に学ばせる「必須作業項目」の設定

- ・①ワイパーリフィール交換、②サークルチェック、③リフトアップ作業、④ホイールナット増し締めを、複数の実習で繰り返し実施し、試験項目にもすることで身に付いた技術としていく。

(3) クラス編成の取り組み

1) 「科別混成クラス」編成計画

- ・1、2組：整備科日本人+国際科留学生。
- ・3、4組：一級自動車工学科+整備科留学生+国際科留学生 (1年次の上位)。

2) 交流密度の維持・向上対策

- ・課題：上記構成により、日本人と留学生の交流幅が狭まる懸念がある。
- ・対策：課外活動 (スポーツレクリエーション、自転車整備等) の活性化と、実習班内の比率の最適化。

3) 募集方針の変更

- ・次年度より留学生に対して「日本人と学べる」から「日本人と同じカリキュラムで学べる」へ提示内容を変更し、柔軟なクラス編成を可能にする。

(4) 整備士新課程対応

1) 2級新課程 (総合) 1年目の振り返り

- ・全体的に順調だが、教科書の内容減少に伴いシラバスへの補足 (基礎説明) が必要。
- ・新たに入った二輪車授業のレベル感については他校見学を終え、今後5校で共有予定。

2) 1級新課程 (総合) 対応計画 (2027年度開始)

- ・5校共同プロジェクトでカリキュラムを策定。その後、栃木校の授業計画を作成する。
- ・規則改正により実務実習の実施構成に柔軟性が生まれたため、4年次への分散実施などを行うかの検討をする。

4. 配布資料

上記各課題についてそれぞれ資料あり

以上